

第8日目

アジアの歴史に立たれる神

1月5日 午後7時

立教学院諸聖徒礼拝堂

(環状グループ)



日韓交流、日韓在日両プロジェクト

聖歌 古今聖歌集 第188番

[おと(なかないよ)に] 188 188 188 *EVENTIDE*
William H. Monk, 1841

ひく れて よもは くらく わがたまは いとさびし
よるべなき 身のたよる 主よ とともに やどりませ

いのちの くれ ちかづき 世の いるか うつり ゆく
とこしえに かわらざる 主よ とともに やどりませ

よの やみ おしせまて サタナの さそい しげし
とこのまも 去り まさで 主よ とともに やどりませ

死のはり いずこに ある わが主 とともに いまさば
われかちて あまりあらん 主よ とともに やどりませ

十字架の くしき ひかり 閉ずる 目に あおがしめ
みさかえに さむるまで 主よ とともに やどりませ

Atide with us, but bids the eve-side
Henry F. Lyle, 1847

- 1 日 くれて よもは くらく わがたまは いと さびし
よるべなき 身のたよる 主よ とともに やどりませ
- 2 いのちの くれ ちかづき 世の いるか うつり ゆく
とこしえに かわらざる 主よ とともに やどりませ
- 3 よの やみ おしせまて サタナの さそい しげし
とこのまも 去り まさで 主よ とともに やどりませ
- 4 死のはり いずこに ある わが主 とともに いまさば
われかちて あまりあらん 主よ とともに やどりませ
- 5 十字架の くしき ひかり 閉ずる 目に あおがしめ
みさかえに さむるまで 主よ とともに やどりませ

詩篇 第106編から

司式者 ハレルヤ、主に感謝せよ、神は慈しみ深く、そのあわれみは
永遠

会衆 **誰が主の偉大なみ業を語り、その誉れをたたえ尽くすこと
ができようか**

司式者 幸せな人はおきてを守り、いつも正義に生きる人

会衆 **主よ、あなたの民を慈しみ、私たちをかえりみ、救ってくだ
さい**

司式者 選ばれた民の栄えにあずかり、あなたの民の喜びを味わ
い、あなたの民として誇れるように

司式者 栄光は、父と子と聖霊に

一同 **初めのように、今も世々に限りなく アーメン**

司式者 今日私たちがここに集ったのは、神の民である教会が、この
新しい世紀において、正義に基づいた真の平和の道具と
して用いられることを願うためです。

今わたしたちは神と全ての民の前に謙遜な心で立ち、私た
ち一人一人の、そして日本聖公会と日本社会の歩みを振
り返りながらその罪を自覚し、神と隣人に赦しを乞い、真の
和解へと向かう備えをしなければなりません。小さな神の民
の声に託された神の招きの言葉に耳を傾けましょう。

朗 読 証 言 ホン・マンヒ

司式者 神のみ前にひざまずいて、自らを省み、共に罪の赦しを祈り
ましょう。

共同懺悔 日本聖公会 95宣教協議会共同ざんげ

司式者 私たちは、日本聖公会が祈禱書の中に「天皇のための祈り」を記載し、公の礼拝の中で長年にわたりこれを用いてきたことの誤りを心に刻みます。

会衆 「わたしはあなたの神、主であって、あなたはわたしの他に何者をも神としてはならない」という戒めにそむいたこの罪を、主よお赦してください。

司式者 私たちは、日本聖公会が「支那事変特別祈願式」「大東亜戦争特別祈禱」「紀元節祈禱」などを用いて公に礼拝し、アジア太平洋地域の人々の命を奪う戦争に荷担したことを心に刻みます。

会衆 「あなたは殺してはならない」という戒めにそむいたこの罪を、主よお赦してください。

司式者 私たちは戦後50年の長きにわたり、日本の侵略戦争によって血を流した全ての人々、ことにアジア太平洋地域の人々

に対して、国家と教会の責任を明らかにせず、自らの経済的利益と繁栄にとらわれて隣人である人々をむさぼりつけてきた罪を心に刻みます。

会衆 **「あなたはむさぼってはならない」という戒めにそむいたこの罪を、主よお赦してください。**

司式者 私たちは、日本聖公会が日本社会の中において差別を受けている人々、女性、「障害」者、在日韓国朝鮮人をはじめとする外国人、被差別部落の人々、アイヌの人々、沖縄の人々の痛みや叫びを聴かず、共に歩んで来なかったこと、また教会の中においても気づくべき多くの差別があるにもかかわらず、それに気づかず、知ることなく無視し、人々に今も苦しみを与え続けていることを心に刻みます。

会衆 **「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」という戒めにそむいたこの罪を、主よお赦してください。**

一同 **正義を行うために召されていることを理解せずに、私たちは歩んできました。どうかこの現実から立ち上がり、つくりかえられ、二度と誤った祈りをすることなく、新たにあなたの道を歩むことができますように。主イエスキリストのみ名によってお願いいたします。 アーメン**

司式者 もし、あなたが真実と公正と正義をもって「主は生きておられ
る」と誓うなら、諸国の民は、あなたを通して祝福を受ける
(エレミヤ書 4:2)

司式者 聖書のみ言葉を聞きましょう

聖書朗読

説教 李仁夏師 在日大韓基督教会川崎教会元老牧師

聖歌 古今聖歌集増補版 第12番

きませ きませ 平和の王

ひとつの からだに してください



き ま せ - き ま せ へ い わ の お う



ひ と つ の - から だ に し て く だ - さい ア - メ ン

祈り

司式者 主よ、あわれみをお与えください

会衆 キリストよ、あわれみをお与えください

司式者 主よ、あわれみをお与えください

(聖公会 ローマカトリック共通訳)

天におられるわたしたちの父よ、

み名が聖とされますように。

み国が来ますように。

みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように。

わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。

わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします。

わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください。

国と力と栄光は、永遠にあなたのものです。 アーメン

司式者 慈しみ深い神よ、あなたは、罪多いこの世の只中で人間となり、人々の苦しみをつぶさに見、叫びを聴きながら和解の業を進めておられます。今教会と社会の過ちを告白し、あなたの命に生かされて新たな世紀を歩もうとする私たちに恵みをお与え下さい。

どうか私たちが驚くべきみ業によって神と隣人との和解に導かれ、イエス・キリストの愛によって自らと隣人を愛することができますように。 **アーメン**

司式者 かつて雲の中に示された虹が、神とあらゆる被造物の和解のしるしとされたように、わたしたちの教会が、この世界にあって和解のしるしとなることができますように。 **アーメン**

司式者 日本と韓国の教会、特に、両聖公会の交わりが深められ、宣教の同労者として共に学びあい励ましあうことができますように。 **アーメン**

司式者 日本に住む全ての外国人、特に在日韓国朝鮮人が住民としての基本的権利を持ち、共に手を携えてみ心にかなう社会を作り上げる一員として働くことができますように。
アーメン

派 遣

司式者 平和を実現する人々は、幸いである。

会衆 **その人たちは神の子と呼ばれる。**

司式者 ハレルヤ、主と共に行きましょう

一同 **ハレルヤ、主のみ名によって アーメン**

聖歌 古今聖歌集増補版 第1番

(おしかえし)

あなたの平和の どうぞにしてください

主よ わたしをあなたの 平和のどうぞに

1 にくしみ あるところに

あなたの愛が あるように

かなしみ あるところに

よろこびが あるように

(お り か え し)

2 あやまち あるところに

やさしい 心のゆるしを

うたがひ あるところに

しんこうが あるように

(お り か え し)

3 ぜつぼう あるところに

みちあふれる きぼうを

くらやみ あるところに

光が あるように

(お り か え し)

あなたのへいわの - ど

うぐにしてください - 主

よわたしをあなたのへ

Fine

いわの どうぐに (-)

1.に
2.あ
3.ぜ

く し み あ る と こ ろ に - あ
 や ま ち あ る と こ ろ に - や
 つ ぼ ち あ る と こ ろ に - み

な た の あ い が あ る よ う に か
 さ た の い あ こ り が あ の ゆ よ う に か
 ち あ あ ぶ れ る - き ほ う を く

な し み あ る と こ ろ に - よ ろ
 た が い あ る と こ ろ に - し ん
 ら や み あ る と こ ろ に - ひ

D.C. al Fine

こ こ び が が あ る よ う に
 か り が あ る よ う に

「証言」

ホン・マンヒ（大韓聖公会ソウル大聖堂信徒）

韓日関係史を短い時間で話すことは、大変困難なことで、しばしば過去の歴史をめぐる抽象的な議論におわることもあります。そこで、私はまず植民地支配下に生きた私自身と周辺の人たちから見聞きた事を話すことでこの時間をはじめます。

1900年を前後し、日本は何度も韓国を侵略した末、1910年ついに韓国の国権を強制的に奪い、韓国の魂とすべてのものを手当たり次第に抹殺して、36年ものあいだ、韓国人は言葉に尽くせぬ苦しみを経ました。識者の家に生まれた私は日帝下でもそれほど悲慘な暮らしをしたわけではおませんでした。それでも植民地で生まれたひとりの被支配者としての苦しい生活は、私も例外ではおませんでした。

わたしの祖母は、韓国が日本帝国により外交権を奪われ武装解除された韓日併合の頃、韓国聖公会の初代信徒、鎮川(チンチョン)教会の伝道婦人であり、わたしのおじは英国人宣教師が経営した鎮川(チンチョン)の病院の医師であり、わたしの母はその病院の看護婦でした。わたしの父は時代的民族的痛みを骨まで感じながら初等学校を卒業し、中学校に進学しました。1919年、「3・1独立万歳事件」が起こったとき、父は今の京畿(キョンギ)中学校生としてこの運動に加わり一年間の獄苦をなめました。

その後東京の早稲田大学に学び、母国に帰って高等普通学校で教鞭を
とりましたが、要視察人という処置に耐えかねて教師生活をやめ、いなかで
農村啓蒙運動に入り農村の人々を教えました。母は病人たちを助け治療
する日々を力の限り送りました。私たち兄弟はそういう父母のもと、学校に
入るまでは平凡な家庭の愛の中に育ちました。しかし国民学校にいくと、学
校では日本語を学び、家に帰ると韓国語で暮らすという矛盾の中を生きる
ようになり、学年があがるにつれ複雑な思いをもつようになりました。学校に
行けば国語の時間は日本語を習いますが、家に行けば父はハングルと漢
字を教えました。自分の国の言葉を絶対に忘れるなど。

戦争が加熱すると生活必需品が不足し、クラスにその物品、運動靴や
ノート、鉛筆、そして弁当などが配給になりましたが、それらはクラスの10%
程度に割り当てられただけで、しかもその配給は愛国献金をよく出す子に
だけにあたえられ、愛国献金を出せない大部分の子どもたちは大きく傷つ
きました。人の心がすさみ、家毎に銀製品や真ちゅう食器などがすべて供
出され、物資難はひどくなり、食糧と全ての物資がわずかな配給となり、食糧
を受けようとして歩き回ることになりました。その頃、ひどいときには、豆の油
を絞ったカスさえも食糧として配給されました。「内鮮一体、皇国臣民」とし
ての全ての忠誠を強要し、朝に起きては天皇がいる東を向き拝礼をせよと
教え、教室には日章旗と並んでかけられた二重橋に礼をさせました。しか
し、「内鮮一体」とは言葉だけで、彼らは、実際は韓国人と日本人をことある
ごとに差別して、二民族の間の感情の悪化を煽っていました。学年が上が

るにつれ、私たちは午前には授業、午後には仕事に出ましたが、農村の学校の子どもはもっと仕事をしました。道路をつくるために砂利を掘ったり、五月には田植え、山で松の枝刈り、木の根掘り、草むしり、木の皮とりなど、松油は飛行機の油、木の皮は服を作ると言っていました。このように幼い生徒達も勤労働員を受けながら昼食はおろか、朝・夕もおかゆで生き延びる子も多かったのです。

第二次世界大戦が終わりにむかうころ、日本は韓国から多くの労務者、学徒兵、そして女性たちまでも軍需工場で稼がせるとして連れていきはじめたのですが、連れていかれた女性たちが挺身隊という名の軍隊慰安婦にされるという噂が立つや、娘をもつ親たちは相手をよく調べもせず娘を急いで嫁がせました。わたしのおじも二十前の二人の娘を非信徒の男に嫁がせています。信徒家庭で育った姉達も、頑固で気難しい儒教の家庭に嫁ぎ苦勞しました。原爆校下当時、日本に労務者として行っていたわたしの親戚の兄が、戦争が終わり無事に帰って来ました。しかし結婚して生まれた子どものうちひとり、生まれつきお尻に絶間なく腫瘍ができて化膿し、末の子は口蓋裂症でした。彼らの症状が被曝二世にあらわれるものだと、私を、私は教会女性連合会で直接被害者を支援しはじめてから気付きました。

私がここで話している程度の話は、日帝時代の朝鮮では贅沢な人の話にすぎません。日帝が植民地とした諸国、特に韓国でおこなわれた残酷な事件は数知れなません。韓日併合を強制締結する前、すでに一国の王妃